

## 経口摂取の開始

患者さんが回復するなかで『食べられるかもしれない』と感じることがあると思います。経口摂取開始基準に達していればスクリーニングを行い、嚥下評価を行うことで早期に経口摂取への移行ができるかもしれません。

### スクリーニング

- ① 反復唾液テスト⇒
- ② 水飲みテスト⇒
- ③ フードテスト



## 嚥下に問題なければ経口摂取開始です！

### 経口摂取開始基準

- 意識レベルが覚醒する時間がある
- バイタルサイン・全身状態が安定している
- 重篤な誤嚥を示す徴候がない
- 嚥下反射を認める
- 口腔内を清潔に保てる
- 咳嗽が可能で気道のクリアランスが良好
- 著しい舌運動・咽頭運動の低下がない
- 食べたいという意思がある

(4東 松澤寛子)

## 改訂水飲みテスト (MWST)

冷水を飲み込むことで**嚥下運動**と共に**咽頭期における障害**を評価する

### 方法

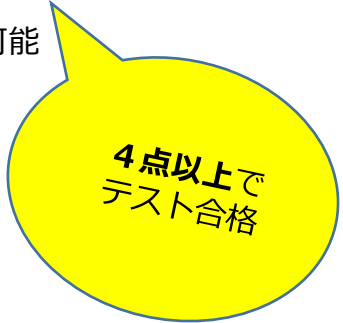
- ① シリンジを用意し、3ml程度の冷水を舌の裏側に注ぎ嚥下を指示
- ② 嚥下後に反復嚥下を2回行ってもらう
- ③ 評価基準4点以上なら最大2回施行を繰り返す
- ④ 最も悪い結果で点数を評価する

### 評価基準 **むせ・嚥下反射の状態・呼吸の変化**を観察

- 1: 嚥下なし、むせるand/or呼吸切迫
- 2: 嚥下あり、呼吸切迫 (不顕性誤嚥の疑い)
- 3: 嚥下あり、呼吸良好、むせるand/or湿性嘔声
- 4: 嚥下あり、呼吸良好、むせない
- 5: 上記4に加えて反復嚥下が2回/30秒以内可能



口腔内に水を入れる際に、咽頭に直接流し、咽頭に直接流れ込むのを防ぐため、舌背には注がず必ず口腔底に水を入れてから嚥下するよう留意します



**注意点** 誤嚥によって口腔内の細菌が肺へと移行するのを避けるため事前に口腔ケアを実施します  
※スクリーニングについては各部署の摂食機能療法についてのファイルに説明が載っています。

**不明なことがあればNST委員に確認下さい**

jゼリー:jelly  
tとろみ:thickness

## 当院の嚥下調整食

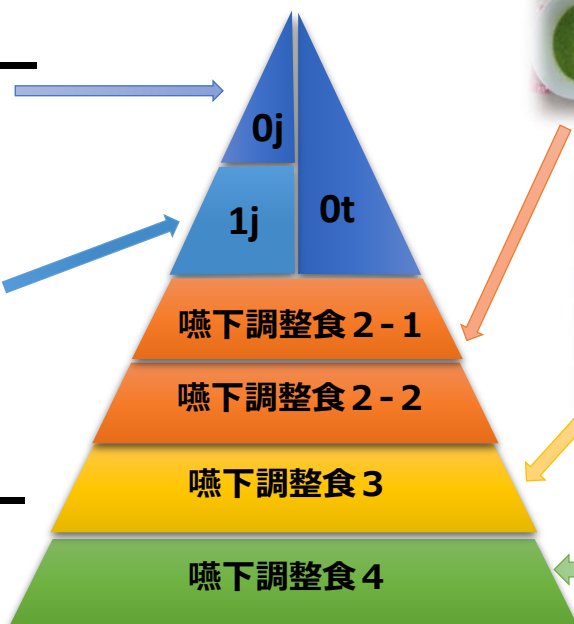
### 嚥下評価ゼリー

(嚥下食品0j)  
食事開始時評価用  
エンゲリード



### 嚥下訓練ゼリー

(嚥下調整食1j)  
プロッカ、  
ゼラチンゼリー、  
茶碗蒸し、冷奴など



### ペースト食

- 2-1 全粥ミキサー
  - 2-2 全粥
- べたつかず、まとまりやすいもの  
2-2は不均質なものを含む

### ムース食

食品をペースト状にした後再形成。舌でつぶせる固さ

### ソフト食

歯肉でもつぶしやすい固さに加工した食品  
圧力鍋を使用して煮た野菜など